

元氣・勇気・魂氣をもらおう！

令和2年初場所(1月12日～26日、東京両国国技館で開催)で、幕内番付最下位、西前頭17枚目、「幕尻」の徳勝龍が、14勝1敗の成績で初優勝し話題になりました。白鵬、鶴竜両横綱が休場し、大関や関脇等番付(ランキング)上位力士に優勝のチャンスが到来と思いきや、幕内ランキング最下位の伏兵が、下克上の優勝を勝ち取ったことは、相撲界の話題としてだけでなく、日本中を活気付けてくれました。

振り返ってみましょう。「令和2年大相撲初場所星取表」で、徳勝龍の対戦相手をチェックします。初日は、幕の内よりランキング下位の西十両筆頭千代翔(徳勝龍よりワンランク下位)と対戦し勝利。しかし、翌日西前頭16枚目魁聖(徳勝龍よりワンランク上位)に敗れ1勝1敗。3日目は降は、実力が拮抗していき番付相手と対戦、その後も徐々々としていた大学時代の恩師が急逝、精神的にも辛い状況に追い込まれます。しかし、ここで「気」を強く持ち、自分らしく戦うことを恩師に誓ったと思います。11日目は、これまでの番付最高位、東前頭8枚目の碧山(ここまで4勝6敗)を破り、翌日、西前頭11枚目輝(ここまで9勝2敗)にも勝利、13日目は、西の9枚目豊山(ここまで9勝3敗)に勝利するなど、勝ち越しを決めている力士を破って勢いをつけます。そして運命の14日目、相手は優勝候補の西前頭4枚目正代(ここまで12勝1敗)との天王山を制します。千秋楽には、異例の取組ともいえる、初場所出場力士のなかで、番付最高位大関貴景勝を心技体気迫のこもった相撲で撃破し、初優勝を達成しました。

幕内最下位の幕尻力士の優勝は、2000年春場所以来2人目の快挙、千秋楽の結び(最後の取組)で幕尻力士が相撲を取るのには、昭和以降で初めて。奈良県出身の徳勝龍は、「千秋楽の一番を前に、「自分が優勝なんてできるわけがない。思い切りいけばいいんや。」挑んだのだから、念じたすらいらない。33歳の幕尻力士は、無心で歴史的な下克上しかかない。休みなんてあり得ない」と語り涙を流しました。また、優勝インタビューで「もう33歳じゃなくて、まだ33歳だと思っています。いけるとこまでいきたい」と宣言しました。さらに「良い時も悪い時も応援してくれる人々のおかげ。自分は周りの人に恵まれている。関わってくれる全ての人に感謝したい」と述べています。

大相撲初場所の徳勝龍の優勝は、メディアを通して私たち人間に「何」を与えてくれたのか、「何」に気付かせてくれたのでしょうか？

徳勝龍の相撲人生と私たち一人ひとりの人生は違います。しかし人間として、共感できる点、参考にできる点必ずあります。メディアが注目した人物から、人間としてのあり方、生き方を学びたいと思っています。

一方で注目された力士の影に、悔し涙を流した人間もいます。大相撲に限らず勝者の背後には、必ず敗者が存在します。その人々に学ぶ姿勢も忘れてはなりません。メディアで映し出された日の当たる部分にのみ学ぶの本質があるのではなく、影に着眼し多面的に心情に寄り添いながら、ポジティブに思考する気持ちと行動を忘れないでください。人生は、山あり谷ありです。体験知を胸に刻み心身を鍛えて、どんな難所も歩んで生きましょう。

仁高生は、自分と地域の願いを叶える支援を！

- ★ アイコンタクト (i c o n t a c t) を心がけてください。目と目で通じ合い、face to face で向き合いながら、「考えながら行動する」笑顔の素敵な人間たれ！
- ★ メモをとる習慣を確立しましょう。生徒手帳をフル活用してください。メモをとる習慣は、将来必ず役に立ちます。
- ★ 意識力 = 意思・意志(瞬間) + 気力(持続)です。意識力を育成することで、学ぶ力が増幅します。考えたことを継続してやり抜きましょう。
- ★ G T H は、「疑問→探究→発見」という学びの方程式です。
- ★ 「自己有用感」を高めてください。そのためにあなたはなにに挑戦しますか？
自分が誰かの役にたつためには、感謝の心と自己肯定感を持つことが大切です！
- ★ N P T は仁賀保高校プログラミング思考の略称です。N P Tを意識して、学びを活性化しましょう。